

市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会（第1回）

7月1日（水）午後6時～午後6時58分 子持公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
1	基本方針概要版「第4章 あるべき学校の実現に向けた基本的な考え方（P4）」、教育の視点に記載がある「本市の強みをいかした教育活動…」とは、具体的にどのような教育活動ですか。	大規模校のような（児童生徒数が多く、学級数も多い）環境ではなく、比較的少人数の学級状況で、きめ細やかな配慮の中で教育を受けられる環境や、支援バスを活用した校外学習により、現地で見て、考えられる教育環境を、現状の本市の（教育活動の）強みと捉えています。 学校規模の適正化により、今よりも規模が大きくなる学校がありますが、それによって上記の強みがなくなるものとは考えていません。 教職員の配置数には、学級規模や児童生徒数が関係しています。そのため、児童生徒数が減少すると、学校に配置される教職員数も減少することになります。学校規模の適正化が図られることによって、配置される教職員数が増加することとなり、それが「きめ細やかな配慮の中で教育を受けられる環境」や「教職員が教育に向き合える環境」にもつながるものと考えています。 現状、美術や技術などの実技系の教科では、教職員の配置が非常に難しい状況があります。適正な学校規模が保てるようになると、そういった特性のある教科の教職員の配置がしやすくなるということも適正規模化のポイントと捉えています。 学校では、グループ活動のような中で、子ども達がお互いにコミュニケーションをとりながら、自分の考えや思いを伝えたりというような学びを行っています。学校（学級）規模が一定規模よりも小さくなってしまうと、子ども達自身でコミュニケーションを図る機会が少なくなってしまうことがあります。このことから減少する児童生徒数に対して、学校規模の適正化により、子どもたちが望ましい環境で学べるようにする必要があります。
2	基本方針パンフレット「3行政運営のこと」（2）に記載がある「教職員が教育に向き合える環境」とは、具体的にどのような環境ですか。	
3	基本方針概要版「第4章 あるべき学校の実現に向けた基本的な考え方（P4）」、教育の視点に記載がある「今後重要性が高まっていくと考えられる視点…」とは、具体的にどのような視点ですか。	社会の変化に合わせ、ICTの活用やタブレット端末による学習など、学校での学びは変化しています。今後は、生成AIを用いた学習なども教育に取り入れられていくかもしれません。 「今後重要性が高まっていくと考えられる視点…」とは、今後の社会の変化等により求められる知識や技術などに対する学びを想定しており、本市における学校の適正規模・適正配置を進める上では、そういった「教育の変化」にも対応しなければならぬことを整理しています。
4	今年度（令和8年度）末に向けて整理する「基本計画」には、児童の扱いや廃校の跡地活用の方法も含まれることになりませんか。	「基本計画」に学童のことや廃校の跡地利用のことは記載しません。 「基本計画」には、「〇〇学校と〇〇学校を〇〇までに統合」などのスケジュールを掲載することになります。その具体的な計画を基に、次年度（令和9年度）以降で、各地区において詳細を協議し、適正規模・適正配置を進めることになる予定です。 適正配置（学校の配置変更）を進めていくと、今ある学童とは違う配置になると考えられます。そのため、学童に関する協議も適正配置と並行して、所管課で調整しながら進めることとなります。 廃校後の施設（跡地）については、学校の適正規模・適正配置の中で利活用の方法を検討するのではなく、市の財産を管理する所管で、公共施設の1つとして利活用を図っていくこととなります。

市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会（第1回）

7月1日（水）午後6時～午後6時58分 子持公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
5	「基本方針」において、適正配置の基準を、小学校では概ね40分以内、中学校では概ね60分以内としています。国の基準では、スクールバス利用の場合で60分以内となっています。 (1) 小学校の基準を国の基準よりも短くした経緯はどのようなものですか。 (2) 中学校の基準について、小学校のように概ね40分以内としなかった理由は何ですか。	「基本方針（本編）」（市ホームページに掲載）の31ページに詳細を記載しています。 国の調査では、小中学校の通学時間においては、40分を超過すると子どもが若干のストレスを感じる可能性が示唆されています。しかし、60分までは、顕著な問題が見られなかったという結果が出ています。 そのため、60分を基準と考えましたが、小学生は中学生に比べて体力等が発達していないことを考慮し、概ね40分以内の基準にしたものです。 中学生については、小学生よりも体力的にも成長していること、また、中学校卒業後、高校に通うようになった場合は、中学校の範囲よりも遠くの高校に通学することが想定されることから、国が示す基準を、そのまま採用したものです。
6	部活動の地域展開について、どのようなスケジュールで進んでいくのでしょうか。 また、学校の適正規模・適正配置を図る中で、今後、部活動についてはどのような方向になっていくのでしょうか。	部活動の地域展開については、今年度から具体的な実行期間として、国や県の指針に基づいて調整を進めています。 令和8年から令和10年までの3年間で、実施期間の前期となり、土・日曜日の部活動の地域展開を進める予定です。 令和11年から令和13年までの3年間で、実施期間の後期となり、できれば平日の部活動の地域展開を進めていくということを検討することになります。 現在は、部活動の地域展開が開始できるよう準備を進めており、受け皿となる種目を増やすよう、調整を進めている段階です。
7	学校の適正規模・適正配置が進み、学校の数が減ると、今よりもスクールバスを使う子どもが増えると思います。その場合、近隣の交通機関のバスだけでスクールバスの手配が可能なのでしょうか。	適正規模・適正配置により、スクールバスの利用者は増える想定されます。 現状では、どこにどの規模の学校を配置するかが決まっていませんので、スクールバスについての検討に入っていない状況です。 今年度中に作成する「基本計画」において、学校の配置状況が確認できれば、それに合わせて、スクールバスの路線等の検討も進めていくという考えでいます。
8	安全通学の確保（バスなど）をどうしていくか。	
9	答えのない問題にご対応いただきありがとうございます。未来の子どもたちに充実した教育の機会が恵まれますことをお祈りしています。今後ともよろしくお願いいたします。	-
10	小中一貫校として配置するのが良いと思います。	小・中学校をまとめた小中一貫校（義務教育学校）の導入も考えられます。ただし、適正規模化を伴わない状態での小中一貫校の導入は検討しないこととしています（基本方針（本編）P30）。
11	学校の統合となると、登下校の時間はどのくらいみているのか。	基本方針（概要版）P6「第5章 適正規模・適正配置」の「2適正配置の考え方」に記載したとおり、小学校で概ね40分以内、中学校で概ね60分以内を基準として、適正配置を考えることとしています。
12	子持中学校は、黒井峯遺跡の上に建っているため、同一地での建て替えは、無理だと思う。次にどうするか、したいかを地域において考える良い機会である。赤城も同様に現状では、維持するのは無理があり、次の体制を考える良い機会と考えている。子どもたちのためにより良い体制を考えていきたい。	-
13	他の地区での説明会にどれくらいの人数が集まったのか知りたいです。また、もっと大勢の方が説明会に来てもらいたい内容だと思います。	説明会の参加人数やアンケートでの質疑の内容などは、市ホームページに適時公開する形で皆さんに情報をお示ししています。 開催曜日や時間によって参加がかなわない方もいることが想定されるため、第2回目以降の開催については、土曜日や日曜日の開催も検討します。
14	教育委員会のみなさん。お疲れさまです。子ども達の未来のためにがんばってください。	-